文部省准允
明治十四年
文部省准允
明治十四年
150

明治十四年分

文部省准允

東京大學

明治十四年七月

文部省准允

東京大學

丁第二十四號

今般小官東京大学綜理被任候処該学事
務之儀取扱候場所ハ是迄之通法理文三学部内
ニ於テ取扱候様致度此段相伺候条至急御裁
可有之度候也

明治十四年七月六日　東京大學綜理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之通

明治十四年七月七日　文部卿福岡孝弟

甲第百十五号

國籍　　獨國人

姓名　　ワグネル

職名　　製作化学教授

寄留地名　　築地居留地

旅行趣意　　学術研究

旅行道筋　　東海道通順路伊豆相模甲斐駿河遠江三河ヲ経テ美濃尾張近江伊勢ニ入リ夫ヨリ前路帰京ニ都合ニ因リテハ往路横濱ヨリ伊勢国四日市ニ到リ夫ヨリ順路右各国ヲ経歴ス

旅行期限　　七月十日ヨリ九月十日マテ六十三日間ノ見積リ

右旅行願出候ニ付其趣意取糺候処

不都合無之保証候間願之趣被差許候儀ニ候ハヽ旅行免状即受領即交付有之度此段相伺候也

但右日数間ハ夏期休業中ニ付願之趣被差許候テモ本部於テ差支無之儀ニ有之候也

明治十四年七月六日　東京大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之趣聞届候事

但旅行免状ハ外務省ヨリ受領次第ニ可交付候事

明治十四年七月七日　文部卿福岡孝弟

甲第六十三號

理学部教授
英國人　アトキンソン
同
米國人　メンデンホール
同
同　ホヰットマン
文学部教授
英國人　クーパル

右之先般伺済之通来七月満期解雇
帰国為致候ニ付而ハ右何レモ在職中勉
励教導致其力為メ生徒ニ進歩不少
儀ニ付功労不浅者共ニ付帰国前ニ於テ

聖上ニ拝謁被仰付御慰労之勅語ヲ
賜リ候様致度然ル時ハ本人共本國ニ
對シ栄誉ヲ得ルコト最モ大ナル儀ト存候条
何卒右之件可然御取計有之度
此段申進候也

明治十四年四月七日

東京大学三学部綜理
加藤弘之

文部卿河野敏鎌殿

申出之趣追テ御序有之節謁見可
被仰付候事
但日時之儀ハ其節宮内卿ヨリ通牒次
第可相達候事

明治十四年七月十一日　文部卿福岡孝弟

國籍　米利堅合衆国

姓名　フエノロサ

職名　文学部哲学教授

寓留地名　本郷元富士町一番地文部省用地内

旅行趣意　学術研究

旅行道筋

東海道通路道ノ諸國ヲ経歴シ伊勢國ヲ
経テ京阪両府ニ到リ夫ヨリ播磨國ニ下リ時
ニテ丹後丹波若狭越前ホノ諸國ヲ経テ加賀國ニ
入リ同國ヨリ順路美濃國通中仙道ニ出テ復タ西
京ニ入リ大坂ヨリ経テ神戸ニ到リ讃地ヨリ海路長
門國下関ニ到リ薩摩國及周防安藝両國ノ各地
ヲ経歴シ廣島或ハ尾道ヨリ海路帰京（但此際ニ由リテハ
神戸ニテ上陸東海道通帰京）

旅行日限　七月十五日ヨリ九月十五日迄

右旅行願出候ニ付其趣意承候處至當ニ
不都合之儀モ相聞不申候間願之趣御許可
相成度尤旅行免状ハ外務省ヨリ受領次第御交付相成度
此段相伺候也
明治十四年七月十二日　東京大学綜理加藤弘之
文部卿福岡孝弟殿

伺之趣聞届候事
但旅行免状ハ外務省ヨリ受領次第
可交付候事

明治十四年七月十三日　文部卿福岡孝弟

國籍　米利堅合衆國

姓名　イー、エフ、フェノロサ

フェノロサ妻

同人男子　イー、ケー、フェノロサ

随從乳母國籍　支那

名　アチヒ

寄留地名　本郷元冨士町一番地文部省用地内

旅行趣意　身体保健

旅行道筋　東海道ヨリ相州宮ノ下ニ至リ
順路伊豆駿河甲斐等ノ各
地方ヲ経歴シ順路帰京

旅行期限　七月十五日ヨリ九月廿日マデ

右文學部教授フェノロサ儀其妻兒等旅行願出候ニ付
右ノ者趣意取糺シ候處不都合無之ニ付保證候間

願之趣無余儀候ニ付旅行免状御受願
御交付有之度此段相伺候也

明治十四年七月十一日　東京大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

再伸乳冊アチン義其姓名漢字ニテ記入致候処同人ニ書
因ルニハ二字ヲ知ラサルモノニテ自己ノ名モ如何様ニ読ミ候哉
ヲ了解致兼候旨申出候趣ニ付漢字ニ翻訳候テモ不都合ニ付
其称呼ニ由リ片仮名ニテ相認メ候義ニ有之候條此旨
附陳候也

伺之趣聞届候事

但旅行免状ハ外務省ヨリ受領次第可交付候事

明治十四年七月十三日　文部卿福岡孝弟

国籍　英国人
姓名　タブリユウヂーコックス
仝行　仝人妻　エム、エー、エー、シー、コックス
仝人長男　イー、ビー、コックス
仝人次男　エヰチ、エー、コックス
職名　豫備門訓導
寄留地名　府下麹町區下六番町六番地
旅行趣意　健康保全

旅行路筋　東京ヨリ甲州街道通リ相州大山ニ到リ其近傍遊覧夫ヨリ東海道通リ帰京

旅行期限　八月一日ヨリ九月一日迄三十二日間ノ見積リ

右夏期休業中旅行願出候ニ付其趣意承糺候ニ素ヨリ故居宅之保證候間願之趣ニ至許候儀ニ候ハヽ旅行免状御受領ノ上交付有之度此段相伺候也

明治十四年七月十三日　東京大学綜理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之趣聞届候事

但旅行免状ハ外務省ヨリ受領次第可交付候事

明治十四年七月十四日　文部卿福岡孝弟

國籍　獨國人

姓名　ドユデルライン

職名　博物学教授

寄留地名　本郷元冨士町一番地文部省用地内

旅行趣意　學術研究

旅行道筋　横濱ヨリ海路伊勢国四日市ヘ上陸東海道通リ大津ヲ経テ若狭越前ノ両国ヲ巡歴シ夫ヨリ前路或近江国ヲ経テ西京ニ出テ尋テ摂津河内和泉ノ三国ヲ経回シテ再ヒ西京ニ帰リ夫ヨリ丹波丹後但馬因幡伯耆出雲ノ各国ヲ巡回シ隠岐ノ国ニ渡リ該国ヨリ海路備前国

ニ到リ順路美作播磨ヲ経テ淡路国ニ
渡リ夫ヨリ海路讃岐国ニ到リ阿波土
佐伊豫ノ三国ヲ巡歴シテ海路神戸港
ニ着シ該港ヨリ海路帰京時宜ニ依リ
或ハ陸路西京ヘ出東海道通リ帰京

旅行期限　七月廿一日ヨリ九月十日マテ

右旅行願出候ニ付其趣意取糺候処不都合無之
保証候間願之趣被差許候儀ニ候ハヽ旅行免状
御受領御交付有之度此段相伺候也

明治十四年七月十五日　東京大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之趣聞届候事
但旅行免状ハ外務省ヨリ受領次第
可交付候事

明治十四年七月十六日　文部卿福岡孝弟

甲第七十九号

三学部外国教授之儀近来正貨幣非
常之騰貴ニ付テハ其俸給巨額ニ相
成リ本部財務上頗ル困難之至ニ付
先般漸々減員之見込相立来年度ニ
至テハ総計九人ヲ雇置候筈ニ豫定
之末其旨上申致置候然ルニ文学部
中政治学ノ儀ハ従来主トシテ其原
理ヲ講授致居候處自今其講授法ニ
夛少釐革ヲ加ヘ欧米各国ノ国憲ヲ
始メ其他諸制度并ニ行政規律等凡
テ実際ニ渉ル件ヲモ講究為致度見
込有之ニ付テハ先般上申致置候人

員ノミニテハ現今ノ学科スラ十分ニ授業スル能ハサル次第ニ付右釐革ハ実際行ハレ難キ儀ニ有之仍テ熟慮候処同学部教授クーパル儀忽来。七月解雇可相成ニ付テハ自今教授フェノロサ江理財学及哲学ノ両科ヲ擔任為致政治学教授ノ儀ハ新ニ独乙国ヨリ至当ノ人物雇入専任為致候ハゝ頗ル便益ニ可有之存候乍右ハ過般上申之旨トハ少々齟齬致候得共前件ノ事情ニテ実際無據儀ニ付速ニ裁可相成候様致度尤該教授之儀ハ来ル十五年二月ヨリ向三ケ年ヲ期シ雇入レ一ケ月俸給貿易壱円銀三百七拾四円并ニ来航旅費并ニ其手当共合シテ同貨千円支給之見込ニ付右俸給金額之儀来年度以後ニ於テ正貨ヲ以テ御交付相成度此段相伺候條至急御裁可候也

明治十四年五月十八日

東京大学三学部綜理　加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之趣聞届候事
但招雇候ハヽ可届出候事
明治十四年七月十九日　文部少輔九鬼隆一

東京大学教授矢田部良吉
右植物学標品採集之為メ来ル廿二日ヨリ
大凡四週間之期限ヲ以テ福井石川富山県
下ヘ派出

東京大学教授岩佐巌
右鑛山冶金及ヒ鑛物採集之為メ来ル廿日
ヨリ大凡五十日間之期限ヲ以テ大阪府及大分
鹿児島、長崎、兵庫ノ各県下ヘ派出致
書ニ通学術標品採集之為メ出張ニ
付右之様以テ此段上申候也

裁可有之度候也

明治十四年七月十六日　東京大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

申出之趣聞届本人ヘ相達候事

明治十四年七月十八日　文部卿福岡孝弟

東京大学教授以下官員及生徒等学術実地研究之為メ派出旅費之儀従前法・理文学部於テ実地之規則ニ準拠シ更ニ今般被定候官級ニ随ヒ別表之通改正シ其餘法理文学部ニテ経伺之條項ハ改正ヲ要セス渾テ大学ノ規則ニ致シ度乃テ該表相副此段相伺候右ハ即今確定不致テハ実際差支ノ廉不尠候間至急裁可有之度候也

明治十四年七月十三日

東京大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之通

明治十四年七月十九日　文部少輔九鬼隆之

東京大学教授矢田部良吉

右植物学標品採集ノ為メ来ル廿二日ヨリ
大凡四週間之期限ヲ以テ福井石川両
縣下ニ派出

東京大学教授岩佐巌

右鑛山実検及ヒ鑛物採集ノ為メ来ル
廿日ヨリ大凡五十日間之期限ヲ以テ大阪
府及大分鹿児島長崎兵庫ノ各縣下
ニ派出前書之通学術標品採集之
為メ出張被　仰付候様致度此段上
申候至急裁可有之度候也

明治十四年七月十六日　東京大學總理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

申出之趣聞届本人ヘ相達スヘキ事

明治十四年七月十八日

東京大學教授以下官員及生徒等学術實地研究之為メ派出旅費之儀従前法理文学部ニ於テ実施之規則ニ準拠シ更ニ今般被定候官級ニ随ヒ別表之通改正シ其餘法理文学部ニテ経伺之條項ハ改正ヲ要セス渾テ大学ノ規則ニ致シ度仍テ該表相副此段相伺候右ハ即今確定不致テハ実際差支ノ廉不尠候間至急裁可有之度候也

明治十四年七月十三日

東京大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之通

明治十四年七月十九日

官級及月給高	旅費等級	並旅行	滞留	東京府管内並旅行	同上滞留	汽車賃
勅任	一等	四円	壱円五十銭	三円	壱円三十銭	上等
奏任及三百五十円以上御用掛并雇外国人	二等	三円	壱円	弐円弐十銭	八拾銭	上等
三百五十円未満三十円以上ノ準奏任御用掛三百五十円未満ノ雇外国人	三等	弐円五十銭	七拾銭	壱円六十銭	五拾銭	上等
判任及三百五拾円未満三十円以上ノ判任御用掛并雇	四等	弐円	七拾銭	壱円六十銭	五拾銭	中等
三拾円未満準奏任及準判任御用掛	五等	壱円五十銭	三拾五銭	八拾銭	三拾銭	中等
等外及三拾円未満準等外御用掛并雇	六等	壱円三十銭	三拾五銭	八拾銭	三拾銭	下等
生徒	七等	八拾銭	三拾五銭	七拾銭	三拾銭	下等
小使園丁及職工	八等	六拾銭	三拾銭	六拾銭	三拾銭	下等

甲第壹号

國籍　英吉利

姓名　ユーウヰング

同氏妻　エ、エム、ユーウヰング

同氏少女　エム、シー、ユーウヰング

職名　東京大学理学部教授

居留地名　本郷元冨士町一番地文部省用地内

旅行趣意　健康保存

旅行道筋　東京ヨリ日光街道通下野國宇都宮ヲ経テ日光山ニ到リ

[illegible]学第五百四十八号

夫ヨリ同国各地方ヲ巡歴シ順路岩城岩代両国ヲ経廻シ夫ヨリ常陸ヲ経テ下総ニ入リ是ヨリ安国各地方ヲ巡歴シテ下総ヨリ海路或ハ陸路帰京シ往路都合ニ依リテハ中仙道ヨリ武蔵上野両国各郡ヲ経廻シ日光山ニ到ル他ハ前記ノ如シ

旅行期限

本月廿四日ヨリ九月十日マテ

右旅行願出候ニ付其趣意承糺候處不都合無之保證人間頼ニ於テ承許候ニ付旅行免状御受領御交付有之度此段相伺候也

明治十四年七月十九日　東京大学綜理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之趣聞届候事

但旅行免状ハ外務省ヨリ受領次第可交付候事

明治十四年七月廿一日

甲第四十三号

豫備門従来ノ学科課程之儀ハ専ラ正則ノミヲ主眼ト致シ候事ユヘ入学生徒試験モ随テ正則ヲ主トシ来リ候処何分解意ノ力寡ク故ニ其本部ヘ進入スルヤ往々不便ヲ生シ且其解意ノ力寡キカ為メニ自然正則之進歩モ亦遅緩ナル様存候間今後ハ入学試業ニ要スル変則英学并ニ数学ヲ一層高尚ニナシ府下或ハ地方ノ諸学校ニ於テ修学ノ途有之学科ハ豫備門課程中ヨリ之ヲ廃シ又新ニ簿記法ノ科ヲ設ケ其他従前ノ

官学第五百四十九号

課程ニ多少ノ修正ヲ加ヘ別紙甲号之通リ改定致シ且従前ノ第四級ヲ廃シ又第三級ヘノ入学試業科目ハ乙号之通相定メ来学年始ヨリ施行致度右様相成候上ハ教導上ノ有益ハ勿論随テ自然教員ノ数モ減スルヲ可得候得ハ経済上ニ於テモ幾分カ裨益可有之儀ト存候條至急裁可相成度此段相伺候也

明治十四年三月

東京大学三学部綜理
加藤弘之

文部卿河野敏鎌殿

伺之趣聞届候事

但脩身及体操ヲ加ヘ脩身ノ授業時間ハ更ニ取調伺出ヘク体操ノ時間ハ適宜之ヲ定ムヘク其他朱書之通訂正可致事

明治十四年七月廿一日

甲号

東京大学豫備門学科撰定規則

一當門ノ課程ヲ三ヶ年トシ随テ生徒ノ階級ヲ三等トス此三ヶ年ノ課程ヲ卒業スル者ハ各自ノ撰擇ニ任セ東京大学法、理、文ノ一学部ニ入ルヲ得セシム

一當門ノ学科ヲ卒リ試業ヲ完ウセシ者ニハ其證書ヲ附与スベシ

学科課程

第一年　（第三級）

第一期　一週授業時間

学科	内容	時間
英語學	書取 讀方 綴文及文法 釋解	十時
數学	代數 幾何	四時
史学	萬国史	三時
生物学	生理	三時
画学	自在画法	二時
和漢書（文）	日本政記 作文	五時

第二期

学科	内容	一週授業時間
英語学	書取 讀方 綴文及文法 釋解	十時
數学	代數 幾何	四時
史学	萬國史	三時
生物学	生理	三時
画学	自在画法	二時
和漢書（文）	日本政記 作文	五時

第三期

学科	内容	一週授業時間
英語学	書取 讀方 作文及文法 釋解	十時
数学	代数 幾何	四時
史学	萬國史	三時
健全学	大意	三時
画学	自在画法	二時
和漢書（文）	日本政記 作文	五時

第二年（第二級）

第一期

学科	内容	一週授業時間
英語学	修辞 釋解 作文 讀方及講演	八時
数学	代数 幾何	六時
史学	中古	三時

科目	内容	時間
簿記法	大意	三時
画学	自在画法	二時
和漢書（文）	通鑑撃要正編　作文	四時

第二期

科目	内容	一週授業時間
英語学	修辞　釈解　作文　読方及講演	八時
数学	代数　幾何	六時
史学	近代	三時
生物学	植物	三時
画学	自在画法	二時
和漢書（文）	通鑑撃要正編　作文	四時

第三期

科目	内容	一週授業時間
英語学	修辞　釈解　作文　読方及講演	八時
数学	代数　幾何	六時
史学	近代	三時
生物学	植物	三時
画学	用器画法	二時
和漢書（文）	通鑑撃要正編　作文	四時

第三年（第一級）

第一期

科目	内容	時間
英語学	英語解（パラフレーズ）　作文　講演	六時
数学	代数　三角法	六時
物理学	重学　乾電論　水理重学	三時
理財学	大意	三時
画学	用器画法	二時
和漢書（文）	通鑑撃要続編　文章軌範　作文	四時

第二期

学科	用書	一週授業時間
英語學	英語解（パラフレース）、講演、作文	六時
數學	三角法	三時
物理學	熱論、光論	三時
化學	無機	三時
生物學	動物	三時
画學	用器画法	二時
和漢書（文）	通鑑擥要続編、文章軌範（作文）	四時

第三期

学科	用書	一週授業時間
英語學	英語解（パラフレース）、講演、論文	六時
數學	三角法	三時
物理	磁力論、電論、濕論	三時
化學	無機	三時
生物學	動物	三時
画學	用器画法	二時
和漢書（文）	通鑑擥要続編、文章軌範（作文）	四時

一授業ハ十一月一日ヨリ三月三十一日マテ午前八時三十分ニ始メ午後十二時三十分ニ終リ四月八日ヨリ十月三十一日マテ午前八時ニ始メ正午十二時ニ終ル但シ和漢學ハ午后別ニ之ヲ課ス

乙号

東京大學豫備門第三級（最下級）へ入學撰定課目左之如シ

釋解（スウイントン万国史 グードリッチ英国史 サンダル第四読本）ノ類

文法（字学（エテモロジー）解剖）

算術（終り迄）

代数（一次方程式（トッドホンター）終り迄）

幾何（第三ノ巻（ロビンソン）終り迄）

地理（總体大意）

和漢書（日本外史講義）

甲第十号

國籍　米国人

姓名　チヤブリン

職名　理學部土木工学教授

寄留地名　本郷元冨士町一番地文部省用地六番館

旅行趣意　學術研究

旅行路筋　横濱ヨリ海路函館ニ到リ夫ヨリ順路札幌ニ往キ該所ニ十日間滞在其近傍ヲ巡歴ス皈途前路ヲ経テ函館ニ皈リ夫ヨリ海路皈京

旅行期限　八月二日ヨリ九月五日マテ三十五日間ト見積リ

右旅行願出候ニ付其趣意取糺候処不都合無之保證候間願之趣被差許候儀ニ候ハヽ旅行免状御受領御交付有之度此段相伺候也

明治十四年七月廿五日　東京大学総理加藤弘之

文部卿代理
文部少輔九鬼隆一殿

伺之趣聞届候事

但旅行免状ハ外務省ヨリ受領次第
可交付候事

明治十四年七月廿六日

甲第二十号

醫學部教授ランガルト儀十一月ニ於テ雇満期相成候ニ付右代員之儀獨乙國ヨリ招雇之儀先般旧医学部綜理ヨリ伺出即指令済相成候處本旧衛生局雇蘭人エーキマン義ハ化學製薬学副学熟達之者ニテ該局既ニ雇満期ニ相成候處本邦ヘ在留罷在候ニ付右獨乙國ヨリ招雇之儀相止同人儀ヲ来十二月一日ヨリ向二ヶ年間月俸墨銀三百五拾円ニテ雇入右ランガルト代員ト致度仍而此段相伺候尤本人義至急治定ヲ望居候間速ニ裁可相成度候也

明治十四年八月六日

官学第五百九十一号

東京大學總理加藤弘之

文部卿福岡孝弟代理
文部少輔九鬼隆一殿

伺之趣聞届候事

明治十四年八月八日

甲第十八号

官学第五百五十二号

今般豫備門第四級廢罷及教則修正
伺済之際教則中修身之課ヲ加ヘ授業
時間取調更ニ可伺出旨指令相成候ニ付
右調査ヲ遂ケ候處毎級既ニ授業時間
之通計大抵高度ニ上リ居別ニ修身課
ニ配付可致剰餘時間無之故不得止毎
級和漢文授業時間ヲ一時間ツヽ分割シ及
第二年級（第二級）第三年級（第一級）ニハ
従前所定之時間外各一時間ヲ増加シ該分
割及増加之時間ヲ以テ修身課之授業ニ
供候様致度授業法ニ於テハ固ヨリ聖哲之
言行ヲ講シ生徒ヲシテ修身道德ノ貴重

スヘキヲ理會シ自ラ品行ヲ淳良ナラシムル
様育導ヲ可加ハ勿論之事ニ候而ルニ
前述ノ如ク毎級和漢文課ニ於テ各一
時ツヽヲ分割致シ候事故該課進歩ニ多少
差支ヲ生スルノ恐有之哉難保候得共更ニ
脩身課書之章句行文上ニ就テ時トシテ
ハ討論問難等ヲ施シ經義ヲ解釋スルノ
力ヲ奨励発育セシムヘク候故傍ラ和漢
文課之補助トモ相成其缺ヲ償フニ可足
候事ト存候乍前陳之通可相定候條
至急裁可相成度仍テ略表相添此段
相伺候也

明治十四年八月四日

東京大學綜理加藤弘之

文部卿代理
文部少輔九鬼隆一殿

再伸修身課ハ創設之義ニ付伺済之上
ハ書籍購求等起業前多少時日ヲ要
シ候故可成速ニ裁可ヲ仰度此旨附陳
候也

伺之通
明治十四年八月十二日

第一年（第三級）

學科	第一期 用書及作文	一週授業時間	第二期 仝上	仝上	第三期 仝上	仝上
修身學	孝經	一	仝上	一	仝上	一
和漢文	日本政記 作文二週一回	四	仝上	四	仝上	四
同径前ノ分		五		五		五
各學科		二二		二二		二二
通計		二七		二七		二七
同径前ノ分		二七		二七		二七

第二年（第二級）

第一期	第二期	第三期

學科	用書及作文	一週授業時間	仝上	仝上	仝上	仝上
修身學	論語	二	仝上	二	仝上	二
和漢文	通鑑擥要正編作文二週一回	三	仝上	三	仝上	三
同ノ従前分		四		四		四
各學科		二二		二二		二二
通計		二七		二七		二七
同ノ従前分		二六		二六		二六

	第一期		第二期			
學科	用書及作文	一週授業時間	仝上	仝上	仝上	仝上
修身學	論語	二	大學	二	中庸	二
和漢文	文章軌範作文二週一回	三	仝上	三	仝上	三
同ノ従前分	文章軌範 通鑑擥要續編ハ今之ヲ除ス	四	仝上 仝上	四	仝上 仝上	四
各學科		二〇		二〇		二〇
通計		二五		二五		二五
同ノ従前分		二四		二四		二四

甲第二十二号

客月廿三日付ヲ以テ圖書物品等献納候者有之節ハ明治八年第廿一号及明治十年第七十七号太政官御達ニ照擬賞誉可相成儀ニ候旨右ニ御達有之候処三学部ニ於テハ従前内外諸学校又ハ諸人ヨリ書籍及学用諸品ノ寄贈モ多ク有之候得共其内貴重若クハ高價ノモノハ至テ尠ク小冊子或ハ尋常ノ物ノミ多ク候ニ付貴重ノモノニ限リ相当ノ謝物ヲ送リ其他ハ別紙甲号ノ如キ謝状ヲ送リ来リ候儀ニ有之候大凡欧米各國

官学第六百三十号

ノ学校等ニ於テハ尋常ノ寄贈品ニ
ハ謝状ノミ相送リ候趣ニ付彼等ヨ
リ本学ヘ寄贈候品ヘ一々賞与致候
ハ餘リ鄭重ニ過キ候儀ト有之加之些
少ノモノト雖モ其数多ク候得ハ一々
賞与候テハ自然費用モ相嵩ミ候事
ユヘ今後四学部共尋常ノ贈物ハ謝
状ノミ相送リ貴重若シクハ高價ノモ
ノニ限リ右御達ニ照拠賞与取計候
様致度此段相伺候也

明治十四年八月十日　東京大学綜理加藤弘之

文部卿代理
文部少輔九鬼隆一殿

再伸別紙謝状之儀海外人ヘ相
送リ候節ハ乙号訳文相添候様
可取計此旨為念申添候也

伺之趣難聞届候事
但外國人ヨリ物品寄贈候節謝物
等送付候儀ハ如従前取計届出
之儀ハ一般同様可相心得候事

明治十四年九月五日

拜啓今般別記之何ゝ
本學ヘ寄贈せられ正ニ
領收致し候浩厚意之段
深く謝する所ニ候敬具

東京大學總理　某

印

官学第六百三十一号

法理文学部諸学科分離改正等ノ件ニ渉リ甲第百号甲第九十九号及ヒ甲第十九号ヲ以テ御伺出之趣ハ本日御裁許相成候尤文学部中哲学科及ヒ和漢文学科ノ哲学之儀ハ主トシテ力ヲ道義及心理学等ニ用ヰ純正哲学ノ如キハ其概要ニ止メ候事ニ相答可然又和漢文学科之儀ハ哲学専門ノ学トハ自ラ其旨意ヲ異ニスル義モ有之ニ付其程度モ許カ斟酌相成候様御注意有之度此段為御心得及御通牒候也

記

明治十四年九月廿日
官立学務局長心得
文部権少書記官 安東清人

東京大学総理
加藤弘之殿

甲第十九号

官学第六百三十一号

過般伺置候改正学科目中法文学部第一年課程ヘ法学通論（エンサイコロピデヤオフロウ）ノ一課目ヲ相加ヘ度右ハ法律ノ種類及其旨趣ノ大意等ヲ講授スルモノニシテ法学生ノ為メニ當初法律全体ノ大意ヲ會得セシメ然ル後第二年ヨリ其細目ヲ教導スルノ目的ニシテ今之ヲ加フルトキハ教導上頗ル其順序ノ宜キヲ得ルモノニ有之且ツ方今ハ欧洲大陸ノ諸法学校ニ於テモ已ニ法学通論ヲ最初ニ教導スルモノ許多ニ至ルノ状勢ニ有之候間儀以テ右課目ヲ相加ヘ

度然ル𪜈ハ啻ニ法学部学生ノ為メ
裨益有之ノミナラス又政治学ヲ専修
スヘキ学生ハ勿論哲学ヲ専修スヘキ
学生ト雖モ法学通論ヲ攻修致シ置
候ヘハ啻ニ学識ヲ富マシムル而已ナラ
ス其本科ノ講究ノ為メニモ裨益尠ナ
少ナカラサルモノト存候條此段相伺
候尤右ハ次学年ヨリ施行致度候間
至急御裁可相成度候也

明治十四年八月六日

東京大学総理加藤弘之

文部卿代理
文部少輔九鬼隆一殿

伺之趣聞届候事
明治十四年九月五日

甲第九十九号

文学部理学部生徒之儀従来各自ノ撰擇ニ任セ二ケ年間獨乙語或ハ法蘭西語ノ内一語ヲ兼修セシメ来候処方今文学理学ノ最旺盛ナルハ獨乙國ニ若クモノ無之候間文理両学部中諸学科ニ従事スル者ノ他日其学フ所ヲ更ニ深ク研究セント欲スレハ必ラス獨乙書ヲ渉獵セサルヘカラサル儀ニ付今若シ獨法両語ノ中一語ヲ専修セシメント欲スレハ獨語ヲ学ハシムルヲ以テ尤利益アルモノト存候條諸教授ニモ諮問致候処何レモ同意

官学第六百三十一号

之旨相着候間今後右両学部ヘ入學スル者ハ必ラス獨乙語ヲ學ハシメ候事ニ改正致度尤更ニ法蘭西語ヲモ併セテ兼修セシメ候得ハ実ニ遺憾無之儀ニ候得共此儀ハ餘力無之到底難被行事ニ付不得已右獨乙ノ一語ト致度依テ此段相伺候也

但若シ餘力アリテ自ラ好候者ハ法学生法蘭西語学習之節臨席聴講差許可申ト存候條此段附陳候也

明治十四年六月十五日

東京大學法理文学部綜理
加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之趣聞届候事

明治十四年九月五日文部卿福岡孝弟印

甲第百號

理學部中

數學物理學星學科（甲）

文學部中

哲學政治學理財學科（乙）

右甲乙両學科之儀ハ各三科ノ專門学ヲ教導スル者ニ有之候處甲學科ノ如キハ已ニ本部一覧ニ記載候通各学共ニ第二年級ヨリ其所定ノ課目同一ニ無之殆ント三學分離之体裁ヲ為シ候者ユヘ自今ハ一向判然ト之ヲ分置致候方却テ便益ト存候條今般數學科物

理学科星學科ノ三學科ヲ分設致度
又乙學科ノ如キハ第四年級ニ至リ始テ
三學ニ分離シ之ヲ教導スルノ規則ニ候
處自今ハ可成專一ニ講習為致候方有
用之才ヲ育成スルノ道ト存候ニ付而ハ今
般哲学科並政治学及理財学科ノ二
學科ニ分離シ第二年ヨリ專ラ其各学
科ニ緊切ナル課目ヲ教導致度尤之ヲ
二學科ニ分離可致ニ付テハ多少從来ノ課
目ヲ増減セサルヲ得ス随テ文學部中ノ和
漢文學科及法文學部第一年級及理
學部第一年級ノ課目モ多少変更セ
サルヘカラサル儀有之仍而別紙學科課

程ニ通相添此段相伺候尤次学年ノ初ヨ
リ施行致度候間至急裁可有之度候也
但哲學科中新ニ生理學ヲ設置候所
以ハ右ハ心理学講習之為メ必緊之者
ナルカ為メニ有之又政治學之儀ハ從来
ハ専ラ其原理之講習ヲ主旨ト致候處
自今ハ本邦古今之諸法制并財政及
歐米各國ノ國憲并諸制度行政規
律等凡テ實際ニ渉ルノ件ヲモ併セテ講
究為致候ニ有之候條此旨モ副陳候
也

東京大學法理文學部綜理

明治十四年六月十五日

加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

再伸学科課程横文之分壱通ヲ相添之也

伺之趣聞届候事

明治十四年九月五日　文部卿福岡孝弟印

法文学部

第一年

和文学

漢文学及作文

史学　法國史　英國史

英文学及作文

論理学

獨乙語メ

法蘭西語ム

メ印ハ文学部生徒ノミニ課ス

ム印ハ法学部生徒ノミニ課ス

哲學科

第二年

哲学　哲学史世態学心理学

史学　史論

和文学

漢文学及作文

英文学　文学史作文及批評

獨乙学

第三年

哲学　近世哲学印度及支那哲学

生理学

和文学

漢文学及作文

英文学　作文及批評

獨乙語

第四年

哲学　心理学、道義学、審美学、印度及支那哲学

作文　漢文

卒業論文　英文

政治学及理財學科

第二年

理財学

史学　（史論）

和文学

漢文学及作文

英文学　（文学史作文及批評）

獨乙語

第三年

政治学　（政治学、行政学、日本古今法制）

理財学　（理財学、日本財政論）

列國交際公法

和文学

漢文学及作文

獨乙語

第四年

政治学　（行政学、日本古今法制）

理財学　（理財学、日本財政論）

法論

作文　（漢文）

卒業論文　（英文）

和漢文学科

第二年

和文学及作文

漢文学及作文

史学　史論

哲学　哲学史　世態学　心理学

第三年

和文学及作文

漢文学及作文

哲学　近世哲学、印度及支那哲学

第四年

和文学及作文

漢文学及作文

哲学　道義学、審美学、印度及支那哲学

卒業論文　和漢両文

數学科

第二年

純正数学

應用数学

星学　理論及実験

物理学

英吉利語

獨乙語

第三年

純正数学

應用数学

星学 理論
物理学
獨乙語

第四年

純正数学
應用数学
星学 理論
卒業論文 英文

物理学科
第二年

純正数学
重学
物理学
分析化学
英吉利語
獨乙語

第三年

純正数学
應用数学
物理学
分析化学
獨乙語

第四年

應用数学
物理学
星学　実験
卒業論文　英文

星学科

第二年

星学理論
星学実験
純正数学
物理学
重学
英吉利語
獨乙語

第三年

星学理論
星学実験
純正数学
應用数学
物理学
獨乙語

第四年

星学理論

星学実験

純正数学

應用数学

卒業論文（英文）

諸学科

第一年

数学（代数幾何）

重学大意

星学大意

化学（無機　實験）

金石学大意

地質学大意

画学

論理学

英吉利語

東京大学教授
脚気病院審査委員 橋本綱常

右ハ兼而稟請ニ據リ去ル八月廿四日附ヲ以
下野宇都宮陸軍営所及轉地療養
所ニ於テ脚気患者審査ノ為出張被
仰付候旨御達書直ニ本学ヨリ同人旅
行先日光表ヘ相達候処最早本人帰
京ノ為発程后ニ而帰京后落手いたし
候ニ付而ハ速ニ発程該営所ヘ出張可致
筈ニ候処幸日光滞在中宇都宮及轉
地療養所ヘ実地研究ノ為私ニ立越晷
経験ノ次第有之ニ付而ハ更ニ出張候義
其成績ハ呉同有之間貴旨申出候次

帯ニ有之就テハ右出張ノ儀被免度不取
敢存候得共可相成如何可有之哉此段相伺
候也

明治十四年九月五日

東京大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

副申本文出張被差免度候ニ付而者本人
ヘハ其執更ニ可達旨成度事ト存候得共
為念此段添而相伺候也

書面橋本綱常出張之儀ハ取
消候條本人ニ相達候事

明治十四年九月十四日　文部卿福岡孝弟印

地学第千四十七號

科條類典本文 小本 上下二冊

明治十四年九月中出版

右者旧幕徳川氏ノ時実行セシ刑法ニシテ一名百ヶ條ト称スルモノニ之レアリ候處今般本学ニ於テ法学生課用書トシテ出版致度ニ付此段相伺候也

但シ右ハ課用而已ニ相用候売ヲ不致義ニ有之候条此旨附述候也

明治十四年九月十日

東京大学綜理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

再伸右書式次学年始メヨリ相用度候条可成速ニ裁可有之度候也

伺之趣聞届候事

明治十四年九月廿四日　文部卿福岡孝弟印

甲第四十號

客年六月九日附ヲ以テ法理醫文学部及豫備門一覧之儀学年始メ五十日以内ニ差出スヘキ旨御達有之候處右一覧中ニ記載シ候諸件ハ概ネ学年ノ始メニ先チ多少ノ改正ヲ要スルモノニテ且右改正候之事ニ渉リ時日ヲ費スモノ少ナカラス或ハ諸教授候ヨリ課メ出サセ候件モ多ク有之学年ノ始メニ至テ初メテ諸事決定施行之場合ニ至リ候者ユヘ学年始業後ニ不相成候テハ一覧編纂ニ着手難相成候処僅ニ五十日間ヲ以テ編纂並ニ印行之業ヲ完了候儀到底難相整ト

官学第六百八十八號

存候間自今四学部及豫備門一覧書毎
学年ノ始メ百日以内ニ差出候儀ニ御許
容相成度此段奉伺候也

明治十四年九月廿一日

東京大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

追而何分之儀相達候迄伺之趣聞置候事

明治十四年十月[illegible]日　文部卿福岡孝弟印

乙第二十号

十三年度東京大学法理文学部経
費金之内外國貨幣交換之際別紙
仕譯書之理由ニ因テ差減ヲ相生候
ニ付テハ教場費ノ内ヨリ流用支消致度
此段相伺候也

明治十四年八月八日　東京大学総理加藤弘之

文部卿代理

文部少輔九鬼隆一殿

伺之趣聞届候事

明治十四年十月三日　文部卿福岡孝弟　印

乙第四十六号

東京大医学部醫学生臨床講義ノ為ニ給費患者ヲ相用来候處該患者之数内外科共ニ十三名ニ止リ何分教授上差支不尠候ニ付外来患者ニ至迄渾テ講義ニ用ニ充其欠ヲ補来候處内科ノ外来患者診察場之義教場兼用ニテ種々差支有之充分ノ授業行届兼候間今般工費金六百弐指図ヲ目途ト被別紙繪圖面朱線之通合七坪五合新規建設致度由テ此段相伺候条至急裁可有之度候也

明治十四年九月十九日

会第千百六十二号

東京大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

追テ本文費用之義ハ医学部経費予算中一万五百円未満当所新営修繕費目中ヨリ流用支弁候度此段副申候也

伺之趣聞届候條落成之上ハ詳細之図面相添可届出候事

明治十四年十月三日文部卿福岡孝弟印

甲第五十五号

法理文学部入学在学退学規則中別記之一ヶ條追加致[illegible]尤同條中詮議之上云々ト有之候ハ[illegible]学出願候者有之候節ハ医学部医院ヘ送リ同院ニ於テ特ニ診察ヲ遂ケ合[illegible]ヲ轉学ヘカラサル可カラサル病症ナル片ハ更ニ其轉学スヘキ受持教員ト協議ニ之ヲ許可スル儀ニ有之候依テ此段相伺候目今轉学願出候者有之候間至急御裁可相成度候也

明治十四年十月十二日

官学第八百九号

甲第六十四號

去ル明治十年十月廿一日附伺書中法理
文学部学生ヘハ[illegible]ニ給費スル者ハ必ラス
四円以下ヲ給ス[illegible]ト相定ムヘキ旨上申
致置キ通リ現今金五円ヲ給スル者ハ
第四年級而已ニ[illegible]其他ハ概子金四円ヲ
給スル者ニ有之[illegible]處客年以来物價大
ニ騰貴シ四圓ヲ受クル処ノ給費学生ニ
至テハ甚困難一方ナラス然レ𪜈今日迄ハ物
價ノ騰貴ニ随ヒ止ムヲ得ス漸々三食ノ
品等ヲ下シ賄来候ニ付漸ク該金額ヲ
以テ食料薪炭油等ヲ相辨居候處近
来薪炭ノ價更ニ非常ニ騰貴シ之カ為

官学第八百七號

東京大學

ノ食料薪炭油而已ノ費用ヲモ之ヲ支フル
能ハス实ニ如何トモス可ラス然ルニ給費
学生ノ如キハ固ヨリ貧困ニシテ学資ヲ
自辨スル能ハサル者ニテ且其家族等モ亦
物價騰貴ニ為ノ既ニ已ニ各自家計之
經營ニ苦ムノ際ナレハ其子弟ニ為メニ学
資ノ不足ヲ補フノ餘力ハ萬々無之義ト
存候ニ付右ハ給[illegible]額ヲ増サヽレハ到底
食料薪炭油ノ費用ヲ支辨スル能ハサ
ル義ニ有之候[illegible]来壱ヶ月金四円ツヽ
支給致来候学[illegible]及新ニ給費スヘキ者ハ
自今壱ヶ月金四円五拾銭ツヽ支給ノ樣
致度此段相伺候條至急裁可相成度候

也

明治十四年十月十九日　東[illegible]大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之通聞届候事

明治十四年十月廿一日　文部卿福岡孝弟印

甲第四十九號

本学貯蔵圖書目録之義毎學年ノ始ヨリ九十日以内ニ編[illegible]差出候成規相成居候処従前之書[illegible]ハ其体裁簡畧ニ失シ捜索ニ不便[illegible]ル廉モ不少候ニ付更ニ欧米各學[illegible]書目ヲ参酌シ編製可致存候ニ付テハ何分数万巻ノ書籍ニ有之候事ユヘ到底右御達日限迄ニ編製出来カタキ而已ナラス今般ハ新規ノ事ユヘ即今ノ処ニテハ豫メ調製ノ期難相定候得共當學年ノ末即明治十五年六月中出来候様可致心得ニ有之尤毎年改版候様ニ付テハ少数ノ増減アル

為メニ全書目ヲ廢シ更ニ編製印刷スル
費用モ不尠事ニ付自今改版之儀ハ
毎三年トシ其期限内ニ増加セシ分ハ
年々小冊子ヲ以テ附録トシ印刷シ置
キ期限ニ至リ右ヲ旧書目ニ併セ出版
候事ト相定度右様致候得ハ大ニ捜
索之便ヲ得テ且費用ヲ省キ候事ト
存候條此段[illegible]候也

明治十四年十月六日
[illegible]京大學綜理藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之趣圖書目録明治十五年六月中
差出候儀ハ聞届候事
印行之儀ハ兼テ[illegible]達候通便宜取計
不苦儀ニ付毎[illegible]年末ノ調査ニ依リ分
類書目ヲ便[illegible]成シ差出候得ハ右
改板等ノ儀[illegible]學適宜取計不苦候
事

明治十四年十月廿七日 文部卿福岡孝弟印

甲第五十六號

理学部金石地質生物学教師
明治十四年十二月三十日雇満期　[illegible]クトル、ダビット、ブラウンス

同　[illegible]学部数学及物理学教師
明治十五年一月十二日雇満[illegible]クトル、レヲポルト、シユンデル

右両名儀頭書之雇期限ニ而解約可相成筈之處ブラウンス者其受持学生之第一学期試業モ未十二月廿日頃ニも相済可申存候ニ付而も右相済候上ハ冬期休業ニモ餘日無之事ユヘ同日已後も期限前ト雖モ満期迄ノ給料一時ニ交付便

東学第八百三十九號

宜帰國差許度又シエンデルハ来十二月一日ヨリ冬半期学科ヲ受持候ヘモ僅ニ四十日以内ニテ授業相停后任ノ者ヘ引継候半而ハ不相成左候時ハ教授上却而不都合之義不尠候ニ付是亦十二月一日以后ハ期限前ト雖モ満期迄ノ給料一時ニ交付帰國差許度候條此段併テ相伺候也

明治十四年十月[illegible]

大学総理加藤弘之

文部卿福岡孝弟殿

伺之趣聞届候事

但解雇候ハヽ[illegible]期日可届出候事

明治十四年十月[illegible]　文部卿福岡孝弟印

伺之通

明治十四年十月廿七日 文部卿福岡孝弟 印

甲第五十号

東京大学医学部豫科教師

[illegible]人

明治十四年十二月九日雇満[illegible]トル、ルードルフ、ランゲ

右ハ去明治七年[illegible]月十日本学医学部ニ於テ雇入レ候以来教授上非常ニ尽力勉励罷在生徒之学術モ大ニ進歩致シ殊ニ品行方正ニシテ人望モ不尠然ル処今般満期解雇ニ付帰國可致就テハ同人義ハ該学部豫科之教師ニモ[illegible]該國文学士之称號ヲモ相受居候モノニテ若シ文学部ニ任用候得ハ学生ヲモ教

専学第八百六十八号

甲第五十一号

東京大学理学部教師

独[illegible]人

明治十四年十二月三十一日雇満期　[illegible]トル、ダビット、ブラウンス

同　医学部教師

[illegible]人

明治十四年十二月廿七日雇満期　ドクトル、アレキサンドル、ランガルト

同

同

明治十五年一月十二日雇満期　ドクトル、レヲポルト、シエンデル

右三名儀頭書之期限ニ而雇止可相成處ブラウンスヲ去明治十二年十二月五日ランガルト

専学第八百六十七号

東京大学

ハ八年十二月廿八日シエンデルハ同年一月十三日ヨリ雇入候者ニ而何レモ在職中勉励教導候ニ因リ生徒之学業大ニ進歩致候儀ニテ功労甚タ不少候ニ付帰國前ニ於テ御序之節　謁見被　仰付
勅語ヲ賜リ候様いたし度仍テ此段
稟請候也

明治十四年十月七日　[illegible]大學総理加藤弘之

文部卿福岡[illegible]弟殿

稟請之趣追テ御序有之節　謁見可被
仰付候事
但日時之儀ハ[illegible]郎宮内卿ヨリ通牒次第可相達候

明治十四年十一月[illegible]　文部卿福岡孝弟印

甲第六十六號

東京大学医学部豫科教師
独乙人[illegible]リトル、ルードルフ、ランゲ

右ハ本年十二月[illegible]雇満期之処十一月三十日豫科生夏半[illegible]科完了候ニ付而ハ十二月二日ヨリ[illegible]八日間冬期学科授業為受持候テハ後任ノ者教授上不都合有之候條特別之御詮議ヲ以テ同月一日ヨリ九日マテノ給料交付致シ十一月三十日限リ授業差免便宜帰國為致度候條此段相伺候也

明治十四年十月廿日

専学第八 百七十三号

東京大學

時間ニ一時間ヲ増シ日々五時間宛為受持可申ニ付今般雇継ニ際シ壱円銀三拾円ヲ増加シ一ヶ月該銀百八拾円給付致度仍而此段相伺候條至急御裁可有之度也

明治十四年十月廿九日　東京大学総理加藤弘之

文部卿福[illegible]孝弟殿

伺之趣聞届候事

但雇継候ハヽ[illegible]約書相添可届出候事

明治十四年十[illegible]日　文部卿福岡孝弟印

確三月七日附ヲ以テ経伺之末ニ扱之者ハ既ニ處分済ニ無ルニ該金ヲ投函之後紛失セシモノト認メラレタルニ付其事跡ヲ詳悉シ遺跡等確之義其際驛遞局ヘ照会致シ置キ處明日同局ヨリ回答有之其旨ハ何分紛失之經跡判然難致趣ニ付テハ無餘義[illegible]右金圓ハ法理文学部十三年度経費[illegible]圓ヲ以テ棄捐ニ相立度此段相伺候也

明治十四年八月廿日　[illegible]大学總理加藤弘之

文部卿代理

文部少輔九鬼隆一殿

伺之趣聞届候事

明治十四年十一月[illegible]　文部卿福岡孝弟印

伺之趣聞届候事

明治十四年十二月廿八日 文部卿福岡孝弟 印

甲第百〇四號

東京大學醫學部

[illegible]臨床講義及外來臨床講義

[illegible]人

[illegible]ドクトル、エルウヰン、ベルツ

月俸壹円銀四百円并受持外講義手當一ヶ月壹円銀弐[illegible]

右ハ來明治十五[illegible]六日ニテ滿期解雇可相成之處元来醫學部學年之義ハ毎年十一月ニ而終リ候ニ付而ハ同人儀半途ニテ解雇致候テハ実際授業上甚差支加之全人ノ代員ニ可適者無之ニ付テハ來明治十五年六月七日ゟ同十一月三十日迄向五ヶ月ト二十四日間雇継申度尤モ

専學第九百四十四号

給料其他諸條約トモ從前ニ結約面ニ從ヒ單ニ追加條約ノミ取結申度依テ右追加文ヲ添此段相伺候也

明治十四年十二月七日

[illegible]京大学總理加藤弘之

文部卿福[illegible]弟殿

伺之通

但雇継候ハヽ条約書相添可届出候事

明治十四年十二月廿四日文部卿福岡孝弟印

シ毎月末ニ相渡ス可キ事
但シ右給料ノ外受持外講義手當トシテ
一ヶ月日本壱円銀貨弐拾円ツヽヲ本文
ノ月日中ヲ算シテ毎月末ニ相渡スヘキ事

甲第八十九号

米國人

雇期明治十三年一月九日ヨリ十[illegible]月八日マテ
給料日本貿易壱円銀三百七拾円[illegible]日本貿易壱円銀六百円 テアリ

右米人ハ十五年七月[illegible]満期ニ付雇同人儀ハ人
物学業共ニ間然[illegible]無之加之教導勉励
殊ニ頗ル適任之[illegible]有之ニ付右期限後
尚引續キ明治十五年七月九日ヨリ仝十七年
七月八日マテ二ヶ年間従前之給料据置
ヲ頭書之通ヲ以テ傭継キ申度右ハ本学
并ニ本人之都合モ有之候ニ付協議ノ上決定相
伺候條可成至急御裁可有之度候也